

パネル:エンピリカルソフトウェア工学とプロセス改善

誰がためにエンピリカル

～ 開発者にメリットのあるデータ収集を～

SRA先端技術研究所(EASEプロジェクト)

阪井 誠

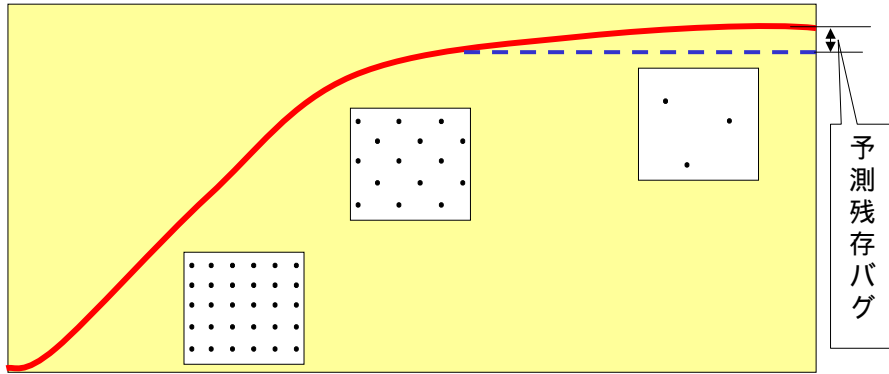
データを集める目的(これまで)

- プロセス改善
 - プロジェクト管理
 - プロジェクト制御
- 会社の利益
- 開発者の利益

開発者: 話はわかるが,それどころでない!!

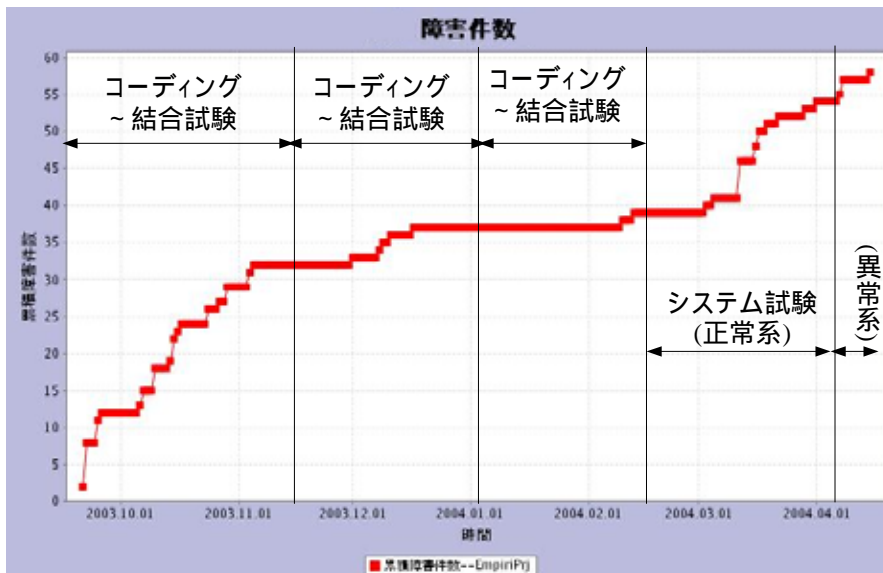
2

SRGM(信頼度成長曲線)



- 残存バグが予測できる
- テスト項目に対してバグが均等に分布していることが前提

3



- 試験内容に応じて分析する必要がある
- 収束したように見えるなら , , , , , ,

4

開発者にメリットのあるデータ収集を

- 開発者は納期を重視しがち
 - 理論とメリットがなければ協力しない
- 開発者の負担にならないデータ収集
 - 作業が増えない
- 開発者に役立つ分析
 - 危機管理(問題発見のきっかけ)
 - 状況説明(適正な支援を得られる)

5

誰がためにエンピリカル？

謝辞

- 本研究の一部は、文部科学省「e-Society 基盤ソフトウェアの総合開発」の委託に基づいて行われた。

(ポスターコーナーでデモをしています)